

# 明德寺報

2025 年 1 月 1 日

第 601 号

発行

住職 秦 信明

長浜市木之本町黒田

## 新年のご挨拶

住職 秦 信明

皆様にはお健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。  
旧年中はいろいろとお世話になりありがとうございました。本年も  
どうぞよろしくお願い申し上げます。

住職を継承して 5 年になりますが、兼職の身で十分その重責を果  
たせているとは言い難く、むしろご門徒の皆様にはご迷惑をおかけ  
していることと思っています。

今は幼青少年教化の大切さに思いを寄せ、日曜学校を坊守と共に  
活動の中心にしております。次男の太知がこの 4 月から小学校に行  
きます。長男の信慈は小学 3 年生になります。子どもの成長と共に、  
いろいろな出会いの機会を作り、皆さんの楽しい交流の場として、開かれたお寺を目指して頑張っ  
ていきたい、新たな決意をしております。役員の方々と相談しながら諸課題に取り組んでまいりたい  
と思っておりますので、より一層のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

## 入寺 50 年を迎えて

前住職 秦 信映

明けましておめでとうございます。

昭和 51 年 4 月に明德寺住職として入寺して、今年で 50 年になります。米原市朝日町からハイヤ  
ーに乗って、仲人の残景寺老僧を先頭に、黒田の在所の入り口で下車し、花嫁道中のように多くの  
方々の出迎えを受けてお寺の本堂まで歩いたことを思い出します。お寺の鐘は鳴り響き、境内から  
階段を上がり本堂内へ通じる道には赤じゅうたんが引かれ、その上を緊張しながら歩きましたこと  
が昨日のように甦ってきます。

あれから 50 年。随分明德寺も時代と共に変わりました。27 歳で住職をお預かりしましたが、当  
時は住職たる仕事もわからず、ただ義母の仰る通りにしておりました。見知らぬ土地に身を置き、  
血縁関係のない義母叔母との 3 人での生活は、孤独と緊張の生活そのものでした。3 年後に結婚し  
子どもにも恵まれ、ご門徒の温かいお心に触れ、それからは水を得た魚のように心身ともに大きく  
育てていただきました。30 歳の時に長浜五村別院離脱事件が起こり、そのことを通してお寺の在り

方や住職の役割などを学ばさせていただきました。私にとっては貴重な  
体験でした。そして多くの信頼すべき人たちと出会うことができました。

本年喜寿になりますが、体調管理に十分留意して住職を支えていきたい  
と思っています。いろいろご迷惑をおかけいたしますが、ご門徒の皆様には、  
旧に倍してご指導・ご支援を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

# 修正会

**1月1日(水) 午前9時30分**

**お勤めと年頭の挨拶**

互礼会はありません

**お誘い合わせてお参りください**

他所門徒の方は1月3日(金)午後1時からです。  
「お斎」はありません。



## 日曜学校「書初め大会」



**日時 1月5日(日)午前10時**

**会場 明德寺本堂**

**持ち物 習字の出来る道具等**

### 今年(令和7年)の「年回表」

\*日時については、早めにご相談ください。

- ◆ 1周忌—令和6年
- ◆ 3回忌—令和5年
- ◆ 7回忌—平成31年
- ◆ 13回忌—平成25年
- ◆ 17回忌—平成21年
- ◆ 25回忌—平成13年
- ◆ 33回忌—平成5年
- ◆ 50回忌—昭和51年
- (年は亡くなった年)

\*「年回表」は本堂内の北側に掲示してあります。ご確認ください。

\*本堂でのお勤めもできますので、ご希望があればお知らせください。

## 御越年のご案内

湖北三郡の二十二日講「乗如上人御越年法要」が去る12月26日から勤まっております。1月5日から法座が再会されますので是非お参りくださるようご案内いたします。

1月5日(日) 法話—秦 信映氏 (木之本町黒田・明德寺)

1月6日(月) 法話—山田孝夫氏 (小谷上山田町・禮信寺)

1月7日(火) 法話—佐藤義成氏 (長浜市湯次町・満徳寺)

1月8日(水) 法話—京極眞了氏 (米原市多和田・即往寺) 午前中のみ

勤行は午前9時30分・午後1時より

\*会場は高月町井口会議所

# お正月

青柳田鶴子著「ほとけの子」より

私たちのお寺では、1月1日から7日までを修正会と  
いっています。月や星にロケットを飛ばす時、軌道修正  
といって、舵を正しくとりなおしますが、これと同じよ  
うに修正会も、私というロケットが正しく仏さまの国に  
向かうように軌道修正する日なのです。1年間を振り返  
って、私たちの生き方が間違っていなかったか、正しく  
お浄土に向かって歩いて来たかと、舵を取り直すのです。



大晦日のテレビを見ていますと、どこのお寺も神社も初詣での人たちであふれています。「家内  
安全」といって自分の家の者だけは、怪我も病気もしませんようにとお願いしたり、「今年は好い  
ことがありますように」とか、「商売繁盛」と頼む人が多いのです。「宝くじが当たりますように」  
などと勝手なお願いをする人もあります。どこへ行っても、こんなお願いを聞いてくださる神様や  
仏さまはありません。

私たちは楽や得だけを欲しいと思いますが、苦と楽、損と得とは紙の裏表のようなもので、離れ  
られないのです。暑い夏を過ごしたら涼しい秋が嬉しいし、寒い冬を耐えてきたから、暖かい春が  
待たれるのです。ずっと春や秋のように良い気候ばかりですと、嬉しいとは感じないのです。損は  
嫌いだから苦はいやだからといっても損をし苦しみを味わってこそ、得や楽しさが分かるのです。  
丁度板の表だけを残そうと思って、裏を削っているのと同じです。いくら削っても、表のある間は  
裏は裏です。裏が亡くなった時には表もありません。片方だけというわけにはいかないのです。仏  
さまの智慧をいただくと勝手なお願いの間違っていることがよくわかります。私たちが仏様にお参  
りするのは、何かをお願いすることではありません。こうして人間に生まれて、仏さまの教えを聞  
くことができる幸せを感謝し、もっともっと良い仏の子どもになることをお誓いするのです。

## 長浜・五村別院楽僧会結成 70 周年＊「混声合唱団かがやき」結成 10 周年 記念合同演奏会

前住職・前坊守が所属している楽僧会や合唱団の合同演奏会が、「雅楽と仏教讃歌のつどい」  
と称して下記にて開催されます。是非皆様にご来場していただきたく、ご案内をいたします。

追って正式なチラシやポスターでお知らせいたします。入場は無料です。

**日時 4月20日(日)午後1時30分開演 1時受付**

**会場 ルックフラザ(米原市長岡)**



長浜・五村別院楽僧会



混声合唱団「かがやき」

